

社会学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
理論社会学特論	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	2学期	木	2	1
理論社会学研究演習Ⅰ	ハーバーマスの現代福祉国家論(1)	2	永井 彰	1学期	水	1	2
理論社会学研究演習Ⅱ	ハーバーマスの現代福祉国家論(2)	2	永井 彰	2学期	水	1	3
理論社会学研究演習Ⅲ	社会科学のなかの社会学	2	永井 彰	2学期	水	2	4
社会変動学特論	環境問題と社会運動の社会学	2	長谷川 公一	1学期	木	2	5
社会変動学研究演習Ⅰ	社会運動論の社会学	2	長谷川 公一	1学期	火	2	6
社会変動学研究演習Ⅱ	環境社会学の理論と方法	2	長谷川 公一	2学期	火	2	7
社会変動学研究演習Ⅲ	船橋晴俊を読む	2	長谷川 公一	1学期	火	4	8
地域社会学特論	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	2学期	火	4	9
地域社会学研究演習Ⅰ	質的社会調査法	2	小松 丈晃	1学期	金	2	10
地域社会学研究演習Ⅱ	カタストロフィの社会学	2	小松 丈晃	2学期	金	2	11
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	1学期	水	3	12
社会学特論Ⅱ	ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会	2	清水 晋作	集中(1学期)			13
社会学特論Ⅲ	福祉社会の成り立ち	2	菅原 真枝	1学期	火	3	14
社会学特論Ⅳ	“被害者になる”ことの社会学	2	本郷 正武	集中(2学期)			15
社会学調査実習Ⅰ	社会調査実習(1)	2	小松 丈晃	1学期	金	3、4	16
社会学調査実習Ⅱ	社会調査実習(2)	2	小松 丈晃	2学期	金	3、4	17

課題研究 (社会学)		4	長谷川 公一 永井 彰 小松 丈晃	通年	月	1	
---------------	--	---	-------------------------	----	---	---	--

科目名：理論社会学特論／ Theoretical Sociology (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM24209， 科目ナンバリング：LHU-SOC601J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ハーバーマスの社会理論

2. Course Title (授業題目)：

Social Theory of J. Habermas

3. 授業の目的と概要：

ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ハーバーマス研究の視座と方法
3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (1)
4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (2)
5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (3)
6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置 (4)
7. コミュニケーション行為理論の論理構造 (1)
8. コミュニケーション行為理論の論理構造 (2)
9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
10. コミュニケーション行為概念の再規定
11. 生活世界論の再構成
12. 生活世界とシステム
13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
14. 再構成的社会学の可能性
15. 講義のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) リポート [50%] (○) その他 (受講票の提出など) [50%]

7. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。

8. 授業時間外学習：

授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。

9. その他：

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM13101， 科目ナンバリング：LHU-SOC602J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ハーバーマスの現代福祉国家論（1）

2. Course Title（授業題目）：

Habermas' s Theory of Modern Welfare State(1)

3. 授業の目的と概要：

Habermas の Faktizität und Geltung を邦訳書を手掛かりに精読し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。

ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2 から 15. テキストの講読

6. 成績評価方法：

毎回の授業での受講票の提出(50%)とレポート(50%)

7. 教科書および参考書：

ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性』（上）未来社、2002 年。

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.

8. 授業時間外学習：

予習：テキストを精読する。

復習：テキストについて理解したことを読解メモにまとめる。

9. その他：

科目名：理論社会学研究演習Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM23101, **科目ナンバリング：**LHU-SOC603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ハーバーマスの現代福祉国家論（2）

2. Course Title（授業題目）：

Habermas' s Theory of Modern Welfare State(2)

3. 授業の目的と概要：

Habermas の Faktizität und Geltung を邦訳書を手掛かりに精読し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。

ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2 から 15. テキストの講読

6. 成績評価方法：

毎回の授業での受講票の提出(50%)とレポート(50%)

7. 教科書および参考書：

ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性』（上）未来社、2002 年。

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.

8. 授業時間外学習：

予習：テキストを精読する。

復習：テキストについて理解したことを読解メモにまとめる。

9. その他：

科目名：理論社会学研究演習Ⅲ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM23209, **科目ナンバリング：**LHU-SOC604J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会科学のなかの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology in Social Sciences

3. 授業の目的と概要：

通常のばあい、社会学の歴史は、オーギュスト・コントから語られる。そして、他の社会科学から切り離された独自の専門科学として、取り扱われる。しかし、いうまでもなく、社会学は、社会科学が展開するなかで、その一領域として分化した。社会学にも、社会科学の発展史という共通の根がある。

この授業では、内田義彦や大塚久雄の著作を手がかりにしながら、社会科学のなかで社会学はどのような位置を占めるのかを考えるとともに、社会科学的な思考法について考察を深めることにしたい。

4. 学習の到達目標：

社会科学の展開史のなかに社会学を位置づけることができるようになる。

社会科学に共通する思考法を理解できるとともに、社会学独自の発想法とは何かを理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業のガイダンス

2. 『社会認識の歩み』問題と方法／生活現実と社会科学／「方法論」とメソドロジー／社会科学の言葉

3. 『社会認識の歩み』運命へのチャレンジ

4. 『社会認識の歩み』国家の制作 (1)

5. 『社会認識の歩み』国家の制作 (2)

6. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (1)

7. 『社会認識の歩み』歴史の発掘 (2)

8. 『社会認識の歩み』学問総合化の二つの道

9. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (1)

10. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (2)

11. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (3)

12. 『社会科学の方法』社会科学の方法 (4)

13. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (1)

14. 『社会科学の方法』経済人ロビンソン・クルーソウ (2)

15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(レポート (50%) 授業時の受講票提出 (50%))

7. 教科書および参考書：

内田義彦『社会認識の歩み』岩波書店、1971年。

大塚久雄『社会科学の方法——ヴェーバーとマルクス』岩波書店、1966年。

8. 授業時間外学習：

授業時間前に、各自テキストを読む。

講義での討議や解説をふまえて、各自テキストを読み直す。

9. その他：

科目名：社会変動学特論／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LM14210， **科目ナンバリング：**LHU-SOC606J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

環境問題と社会運動の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology on Environmental Problems and Social Movements

3. 授業の目的と概要：

世界的な経済成長と公害・環境問題を背景に、1970 年代にアメリカで誕生した環境社会学は、日本においても独自の展開を遂げました。世界と日本の環境社会学のそれぞれの特徴を考察します（2－4 回）。環境社会学を生み出す契機にもなった社会運動を反省的に捉える中から、社会運動研究も活性化しました（5－7 回）。2011 年の福島原発事故と 2015 年のパリ協定の採択を契機に、各国のエネルギー政策や気候変動政策、産業政策はいま大きく転換しつつあります（8－13 回）。それにもかかわらず原発事故の当事国日本はなぜ変わろうとしないのか、なぜ変わらないのか。国際社会はいま鋭く問いかけています（14・15 回）。このような問いかけに、私たちは、社会学の視点からどのように対峙することができるのでしょうか。受講者のみなさんと一緒に考えていきましょう。

4. 学習の到達目標：

1997 年に採択された京都議定書を基礎に、2015 年に気候変動に関するパリ協定が誕生しました。京都議定書やパリ協定のような新たな環境政策は、環境問題をめぐる、社会運動と政策当局、産業界との相互の緊張関係の中から生まれてきました。ポスト平成時代の幕開けが迫る 2018 年。やがて 2030 年、2050 年を迎えます。この講義では、1) 環境社会学と社会運動論の歴史を振り返り、それぞれの研究課題を把握したうえで、2) 具体的な環境問題として原子力発電、気候変動問題を取りあげ、環境政策と社会運動の接点から、理論的および実践的課題について理解を深めましょう。3) これらをとおして、福島原発事故の当事国である日本がなぜ変わらないのか、現代日本の社会と政治の課題についても考察します。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ポスト平成時代を生きる君たちへ（第 1 回）
2. 環境社会学の課題と展開（2－4 回）
3. 社会運動論という視座（5－7 回）
4. 脱原子力社会へ（8－10 回）
5. 脱炭素社会へ（11－13 回）
6. リスク社会における運動の政策化と政策の運動化（14 回）
7. 日本は変わるのか（15 回）

6. 成績評価方法：

出席状況や質疑・討議への参加状況（平常点、40%程度を予定）と、課題レポート（60%程度を予定）により評価します。

7. 教科書および参考書：

長谷川 公一 『環境運動と新しい公共圏：環境社会学のパースペクティブ』（有斐閣）ISBN:4-641-07667-7 本講義の基本的な問題意識を述べたもの。受講者は、なるべく入手してください。長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志 『社会学』（有斐閣）ISBN:978-4-641-05370-0 社会学の代表的な教科書の一つ。

長谷川公一・品田知美編 『気候変動政策の社会学：日本は変わるのか』（昭和堂）ISBN:978-4-8122-1553-1 終章「脱炭素社会への転換を」を寄稿。11－13 回に対応。

長谷川公一・山本薫子編 『原発震災と避難：原子力政策の転換は可能か』（有斐閣）ISBN:978-4-641-17433-7 終章「福島原発震災から何を学ぶのか」を寄稿。8－10 回に対応。

ハンドアウトを配布予定。

8. 授業時間外学習：

講師の問題意識を把握するために、授業前にできるだけ、次の 2 点に目を通してきてください。

(1) 『脱原子力社会へ：電力をグリーン化する』（岩波新書、2011 年 9 月刊）。読みやすい新書版。福島原発事故を契機に、世界的に、エネルギーをめぐる大転換が始まりつつある。

(2) 「卒業生に贈る言葉」（本務校での卒業生へのメッセージ。2001 年度以降の毎年分を載せている）。

<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/~hasegawa/farewell.html>

9. その他：

基本的に前半～中盤は講義形式で授業を勧めますが、講義の途中であっても受講者の積極的な質問やコメントを歓迎します。

科目名：社会変動学研究演習 I / Theory of Social Change (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LM12207， 科目ナンバリング：LHU-SOC607J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

社会運動論の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Social Movements Theory

3. 授業の目的と概要：

社会運動を総合的に理解するためには、どのような視点が必要なのか。集合行動論、資源動員論、新しい社会運動論、フレーミング理論などが提起した問題を考察し、社会運動論の現代的な課題と成果を探究する。

4. 学習の到達目標：

代表的な英語論文を取りあげ、社会運動論の主要な流れや論点を理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

集合行動論、資源動員論、新しい社会運動論、フレーミング理論、社会運動と文化論などが提起した問題を考察し、社会運動論の現代的な課題と成果を探究する。

6. 成績評価方法：

出席、報告、討論内容を重視する。

7. 教科書および参考書：

教室で指示する。

8. 授業時間外学習：

新聞をよく読み、最近の社会運動の動向についてリアリティを把握するように努力する。

9. その他：

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LM22208， 科目ナンバリング：LHU-SOC608J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

環境社会学の理論と方法

2. Course Title (授業題目)：

Environmental Sociology: Theories and Methods

3. 授業の目的と概要：

環境社会学の最近の論文を詳細に検討し、環境社会学的研究の成果と今日的課題を考察する。

4. 学習の到達目標：

環境社会学に関する研究の水準・到達点を理解し、その成果と課題を考察する。理論的な課題の所在および調査設計上の課題についても理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
- 2-4. 環境社会学の理論と方法
- 5-6. 地域づくりと環境社会学
- 7-8. コモンズの環境社会学
- 9-10. 歴史的環境の社会学
- 11-12. 食と農の環境社会学
- 13-14. エネルギーの環境社会学
15. まとめ

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [70 %]・(○) 出席 [30%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示する。

8. 授業時間外学習：

演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞむ。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって授業にのぞむ。

9. その他：

オフィスアワー：月 5

科目名：社会変動学研究演習Ⅲ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：長谷川 公一（教授）

講義コード：LM12410, **科目ナンバリング：**LHU-SOC609J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

舩橋晴俊を読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Harutoshi Funabashi' Works

3. 授業の目的と概要：

舩橋晴俊（1948-2014 年）の主要な著作・論文の読解をとおりて、社会学を学ぶ〈よろこび〉を再発見しましょう。『社会学をいかに学ぶか』を手始めとして『社会制御過程の社会学』などの著作を読解します。

4. 学習の到達目標：

舩橋晴俊は、見田宗介などの理論的影響を受けながら、その生涯を賭して社会学の理論と実践の往還・架橋に真摯に取り組んだ独創的な社会学者です。新幹線公害問題や核燃料サイクル施設問題、福島原発事故の究明などに取り組みましたが、社会問題研究の中から理論的洞察を深めようとしたところに、舩橋の真骨頂がありました。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

舩橋晴俊の生涯とその時代/『社会学をいかに学ぶか』をいかに学ぶか I・II/主著『社会制御過程の社会学』の背景と基本構想/主著『社会制御過程の社会学』を精読する／まとめ

6. 成績評価方法：

出席、質疑・討論への参加、最終レポートを重視する。

7. 教科書および参考書：

舩橋晴俊『社会学をいかに学ぶか』弘文堂（2012）、同『社会制御過程の社会学』東信堂（2018、近刊）。

8. 授業時間外学習：

演習参加者全員があらかじめ課題文献を十二分に読み込んだうえで、質問をもって授業にのぞんでください。前回の授業を咀嚼したうえで、前回分についても質問をもって出席してください。

9. その他：

科目名：地域社会学特論／ Regional Sociology(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LM22408, **科目ナンバリング：**LHU-SOC611J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Risk and Ignorance

3. 授業の目的と概要：

自然災害のリスクなどへの対処には、自然科学のみならず人文社会科学の知が必要である。この授業では、社会学的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとの「つきあい方」について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知(想定外)の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. 学習の到達目標：

- ・社会学における各アプローチの特徴と課題について理解できるようになる。
- ・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め—人文社会科学における研究動向概観—
2. リスク社会論再考—U. ベックの社会理論の検討—
3. 社会システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳 (1)
6. リスクと道徳 (2)
7. リスクと道徳 (3)
8. リスク社会と信頼 (1)
9. リスク社会と信頼 (2)
10. 公共財としての科学知とその課題—地域社会と科学—
11. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (1)
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか— (2)
15. まとめと総合討論

6. 成績評価方法：

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%+学期末のレポート提出 60%で評価

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

8. 授業時間外学習：

授業において、毎回、学習課題を出す予定

9. その他：

科目名：地域社会学研究演習 I / Regional Sociology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LM15210, **科目ナンバリング：**LHU-SOC612J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

質的社会調査法

2. Course Title (授業題目)：

Qualitative Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

種々の質的社会調査の視点と方法を幅広く習得し理解を深めるとともに、それらを踏まえて、各自のテーマにそった質的データの収集・分析などを行い、毎回の報告およびそれに関する受講者間での徹底した討議をととして、修士論文作成に向けて、質的社会調査の実践力を高めることを狙いとする。

4. 学習の到達目標：

- ・質的社会調査の歴史と意義を理解できるようになる
- ・質的社会調査の方法によってデータを収集・分析できるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 質的調査と社会学
2. 質的調査の歴史
3. 質的調査の特徴と意義
4. 多様な質的データの収集・分析 (1)
5. 多様な質的データの収集・分析 (2)
6. 多様な質的データの収集・分析 (3)
7. 多様な質的データの収集・分析 (4)
8. フィールドワーク
9. インタビュー
10. 参与観察
11. 生活史
12. 会話分析とは
13. アクション・リサーチについて
14. 調査倫理について
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点 50% + 提出物 (論文・レポート) 50% による

7. 教科書および参考書：

谷富夫・芦田徹郎編著『よくわかる質的社会調査・技法編』ミネルヴァ書房、2009 年
谷富夫・山本努編著『よくわかる質的社会調査・プロセス編』ミネルヴァ書房、2010 年
岸政彦ほか著『質的社会調査の方法』有斐閣、2016 年

8. 授業時間外学習：

受講者は、毎回、次の授業で報告するための資料を作成すること

9. その他：

科目名：地域社会学研究演習Ⅱ／ Regional Sociology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LM25210, **科目ナンバリング：**LHU-SOC613J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

カタストロフィの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Catastrophe

3. 授業の目的と概要：

科学技術の進歩により、リスク管理が適用される領域が拡大されてきたが、その一方で、そうした進歩は、リスク管理の枠を超える「カタストロフィ」の可能性をも高めてしまっている。「カタストロフィ」は、人間の知識の限界（「無知」）や管理の限界を際立たせるが、それゆえに、リスク管理などとは異なったかたちで、未曾有の大災害や気候変動、テロ、パンデミックといった未来の出来事を特別な仕方統治する方法でもある。東日本大震災をも念頭におきながら、この授業では、『カタストロフィのポリティクス』と題するテキストをもとに参加者と議論しつつ、「カタストロフィ」や「想定外の出来事」について社会的に考察するための手がかりを得る。

4. 学習の到達目標：

- ・カタストロフィを社会的に論じていくための手がかりを得る。
- ・無知や想定外の出来事に関する統治実践を批判的に考察できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1)オリエンテーション
- (2)～(4)報告と討論 (1) カタストロフィを防ぐ?—「想定外」を介した統治—
- (5)～(7)報告と討論 (2)「憶測」としてのカタストロフィ
- (8)～(10)報告と討論 (3) カタストロフィとしての未来イメージ
- (11)～(13)報告と討論 (4) カタストロフィと例外状況
- (14)報告と討論：結論
- (15)まとめと総合討論

6. 成績評価方法：

授業での平常点（出席・議論）50%＋（ミニレポートも含めた）課題レポート50%

7. 教科書および参考書：

C. Aradau and R. v. Munster, 2011, Politics of Catastrophe: Genealogies of the unknown, Routledge.

8. 授業時間外学習：

受講者は毎回報告し議論に参加しなければならないので、テキストや関連知識についての入念な予習と復習が求められる。

9. その他：

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：徳川 直人 (兼務教員)

講義コード：LM13306, **科目ナンバリング：**LHU-SOC621J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

質的フィールドワーク概論

2. Course Title (授業題目)：

Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology

3. 授業の目的と概要：

資料蒐集、日誌、ノートといった社会学的知の生産技術の基本を实践してもらいつつ、オリジナル教材を使った講義と演習を通じて種々の質的方法について理解を深める。試行的な著述実践をはさみつつ、質的著述のテキストとそれについて再帰的に著されたテキストを読み進め、半ば演習形式で考察を深める。

4. 学習の到達目標：

社会学的フィールドワーク、とりわけ質的なその基礎的技法について、認識を深めることができるようになる。考え方、意義と限界、調査倫理の基本について理解できるようになる。フィールドワークの実践例を通じて理解を深め、オルタナティブな技術や態度、新しい調査倫理についても認識を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 質的分析法入門
- 2 方法としてのフィールドノート
- 3 感受概念
- 4 非構造的・半構造的面接と調査票の設計
- 5 聞き書き
- 6 インタビュー
- 7 自然主義的観察
- 8 参与観察
- 9 グラウンデッドな接近法
- 10 エスノメソドロジー
- 11 エスノグラフィー
- 12 事例分析・モノグラフ
- 13 ヒューマン・ドキュメント
- 14 アクション・リサーチ
- 15 調査倫理

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・出席 [50%]。予復習の見られない出席や、指定文献を読了しないレポートは、認めない。

7. 教科書および参考書：

『方法としてのフィールドノート』『質的研究用語事典』など複数を教室にて指示する。また、教材的読み物としてオリジナル資料を作成する。

8. 授業時間外学習：

毎回の読み物について目を通すこと。また授業内容についての復習（用語の意味確認）などを提出すること。学期末レポートに向けて日常的にフィールドワーク実践に少しずつ取り組むこと。

9. その他：

公式サイト <http://www.sp.is.tohoku.ac.jp/toku/> および ISTU にて資料等を閲覧する。また、所載のメールを随時利用してよい。

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）， **単位数：**2

担当教員：清水 晋作（非常勤講師）

講義コード：LM98826, **科目ナンバリング：**LHU-SOC622J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ダニエル・ベルの社会理論と現代アメリカ社会

2. Course Title (授業題目)：

Daniel Bell's Social Theory and Modern American Society

3. 授業の目的と概要：

ダニエル・ベルの社会理論の考察を通じて、現代社会の諸問題について分析する。理論を考察する中で、アメリカ社会の具体的事象を取り上げるが、それらはアメリカ社会だけの問題にとどまらず、日本を含めた現代社会に共通の課題である。取り上げるテーマは、資本主義、民主主義、官僚制、エスニシティなどである。またベルの社会理論を中心に扱うが、その際にマルクス、ウェーバー、パーソンズ、マートン、ベラーなどの他の社会学者との関連も検討する。

4. 学習の到達目標：

- ①ダニエル・ベルを中心に社会学の理論について説明することができる。
- ②授業で取り上げる現代社会の主要な問題について説明することができる。
- ③社会理論を用いて、現代社会の諸問題について批判的に分析することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ダニエル・ベルの社会学史における位置づけ
2. 公共知識人
3. 冷戦と資本主義
4. 「資本主義の文化的矛盾」
5. 消費社会——リッツァー「再魔術化」論
6. 官僚制——アメリカの福祉政策
7. エスニシティ①——ギャング
8. エスニシティ②——マートン「アノミー」論
9. 禁酒法
10. マッカーシズム①——アメリカン・デモクラシー
11. マッカーシズム②——反知性主義
12. マッカーシズム③——マッカーシズムからトランプ現象へ
13. 「イデオロギーの終焉」
14. 「脱工業社会」論と大学紛争
15. ダニエル・ベルの社会理論と現代社会

6. 成績評価方法：

レポート（70%）、出席およびコメントカードの提出状況（30%）

7. 教科書および参考書：

参考書

清水晋作『公共知識人 ダニエル・ベル——新保守主義とアメリカ社会学』（勁草書房、2011年）

その他の参考文献は授業の中で指示する。

8. 授業時間外学習：

授業の中で紹介した参考文献を読み、現代社会の諸課題について自分なりの視点から考察を深める。

9. その他：

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：菅原 真枝 (非常勤講師)

講義コード：LM12305, **科目ナンバリング：**LHU-SOC623J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

福祉社会の成り立ち

2. Course Title (授業題目)：

the constitution of welfare society

3. 授業の目的と概要：

福祉社会学の基本的な考え方をとりあげる。社会福祉の現代的課題を学びながら、福祉社会の成り立ちについて理解する。

4. 学習の到達目標：

福祉社会学の基本的な考えかたを理解し、社会福祉の現代的課題について多様な立場から説明することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義を中心に以下のとおり進める。

1. 福祉国家と福祉社会
2. 社会福祉事業
3. 自立と依存
4. 福祉ニーズの多様化
5. 貧困
6. 障害者の就労
7. 子育て支援
8. 地域生活を支える福祉サービス
9. 家事労働
10. 介護の社会化
11. 介護労働
12. 老人ホーム
13. 外国人ケアワーカー
14. 老人ホームと地域社会
15. 福祉社会の成り立ち

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

開講時に指示する。[Will be introduced in the class.]

8. 授業時間外学習：

新聞や書籍を通じて、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

9. その他：

科目名：社会学特論Ⅳ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）， **単位数：**2

担当教員：本郷 正武（非常勤講師）

講義コード：LM98827， **科目ナンバリング：**LHU-SOC624J， **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

“被害者になる”ことの社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of “Becoming Victims”

3. 授業の目的と概要：

いわゆる「薬害」問題や公害問題などの被害者「になる」各種プロセスを取り上げ、「被害者」をめぐる諸問題をとらえる分析方法を多角的に検討する。

4. 学習の到達目標：

社会運動論や医療社会学がこれまで提起してきた諸概念や理論枠組みを使って、「被害者（あるいは当事者）になる」プロセスを多角的に考察し、理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

講義は以下のように進める。進度によって多少内容が前後する場合がある。

【1日目】

1. イントロダクション
2. HIV/AIDSをめぐる集合行為
3. 「薬害 HIV」問題の諸相
4. 「医療化」概念にみる運動のプロセス ＋本日の「まとめ」

【2日目】

1. 「薬害」問題の多様性
2. 「薬害」概念による問題理解の様式
3. 食品公害をめぐる社会運動
4. HIV 性行為感染での「被害者」とは ＋本日の「まとめ」

【3日目】

1. 環状島モデルにみる「当事者」の置かれた立場
2. カミングアウトのポリティクス
3. ライフスタイル運動にみる「弱い主体」
4. 障害者運動にみる「強い主体」 ＋本日の「まとめ」

【4日目】

1. ハンセン病回復者にみる「Becoming Victims」のプロセス
2. 水俣病患者にみる「Becoming Victims」のプロセス
3. 「Becoming Victims」のプロセスの理論的検討 ＋本日の「まとめ」

6. 成績評価方法：

各日の最後の「まとめ」（合計4回）による（100%）。やむを得ず当該時間を欠席する場合、代替のミニレポートを課すことも考慮する。

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は以下の通り。以下に挙げた以外にも適宜参考文献を講義中に紹介する。

本郷正武，2007，『HIV/AIDSをめぐる集合行為の社会学』ミネルヴァ書房。

中川輝彦・黒田浩一郎編，2010，『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房。

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編，2004，『社会運動の社会学』有斐閣。

盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編，2017，『社会学入門』ミネルヴァ書房。

曾良中清司・長谷川公一・町村敬志・樋口直人編著，2004，『社会運動という公共空間：理論と方法のフロンティア』成文堂。

8. 授業時間外学習：

「薬害」や「公害」、社会運動に関するニュースや Web 上の言説について日頃から注意しておくこと。講義中に紹介する参考文献を手にとってみること。

9. その他：

2019 年 1 月 22 日（火）～25 日（金）の開講を予定。

科目名：社会学調査実習 I / Sociology (Research) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時. 前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LM15306, **科目ナンバリング：**LHU-SOC625J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査実習 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Sociology (Research) I

3. 授業の目的と概要：

社会調査実習 (1) の目的は、次の 2 点である。(1) 社会調査の理論と方法を理解する。(2) 社会調査のための問題設定、仮説構築を行う。この授業では、社会調査の基礎と概要 (意義・種類・方法・歴史・課題・調査倫理など) を学ぶとともに、社会調査実習 (2) で予定されている現地での調査実施に向けた準備作業までを行う。

4. 学習の到達目標：

- ・社会調査のための基本的な方法を習得する。
- ・社会調査を行うための仮説構築を行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 社会科学と社会調査
2. 社会理論と社会調査
3. 社会調査における価値・倫理
4. 社会調査の方法 (1)
5. 社会調査の方法 (2)
6. 社会調査の方法 (3)
7. 社会調査の方法 (4)
8. 社会調査の方法 (5)
9. 問題の設定 (1)
10. 問題の設定 (2)
11. 既存調査の検討 (1)
12. 既存調査の検討 (2)
13. 仮説の構成 (1)
14. 仮説の構成 (2)
15. 調査対象の選定

6. 成績評価方法：

授業への出席と発言 50% + (ミニレポートも含めた) 課題レポート 50%

7. 教科書および参考書：

参考文献は、授業で適宜、指示します。また、適宜、必要な資料を配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

9. その他：

科目名：社会学調査実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時, 後期 金曜日 4講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (准教授)

講義コード：LM25306, **科目ナンバリング：**LHU-SOC626J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

社会調査実習 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Sociology (Research) II

3. 授業の目的と概要：

社会調査実習 (2) の目的は次の 2 点である。(1) インタビュー調査の技法を習得する。(2) 設定したテーマに関して社会調査を実施し、その分析を行う。この授業では、社会調査の技法について理解を深めるとともに、社会調査実習 (1) で行った準備作業を踏まえて調査を実施する。その過程をつうじて調査と分析の技法を習得する。

4. 学習の到達目標：

- ・インタビュー調査の技法を習得する。
- ・設定したテーマについて社会調査を実施しその分析を行えるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 調査の企画
2. 調査項目の設定 (1)
3. 調査項目の設定 (2)
4. インタビューの技法 (1)
5. インタビューの技法 (2)
6. インタビューの実施 (1)
7. インタビューの実施 (2)
8. 調査結果の処理 (1)
9. 調査結果の処理 (2)
10. 調査結果の分析 (1)
11. 調査結果の分析 (2)
12. 調査結果の分析 (3)
13. 調査報告書の企画
14. 調査報告書の作成
15. 調査報告 (口頭発表)

6. 成績評価方法：

授業への出席と発言 50% + (ミニレポートも含めた) 課題レポート 50%

7. 教科書および参考書：

参考書は、授業の中で適宜、指示します。また、必要に応じて、資料を配付します。

8. 授業時間外学習：

毎回、課題が課されますので、受講者は、次の授業までに入念な予習が求められます。

9. その他：